

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 白石市立白川中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒989-1102

宮城県白石市白川津田字田中前1-2

E-mail info@shirakawa-j.shiroishi-c.ed.jp

Website <http://shirakawa-j.shiroishi-c.ed.jp/>

幼児児童生徒数 男子 17名 女子 18名 合計 35名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「一人ひとりの笑顔があふれる白川中学校」を学校経営理念として、ESDを「実践的、探求的な態度や能力をもつ生徒(進取)、自然や生命への慈しみの心をもつ生徒(敬愛、活力)、他者を思いやり、多様性を尊重する生徒(敬愛、活力)」を育成する場と捉え、ESDの実践を通して豊かな人間性や心身の育成を目標とした。

具体的には、体験的な活動、地域人材との交流、参加型の学習を柱に、①立志登山、②孫の手づくり、③巣箱づくりでの地域人材との交流、③被災地学習を行った。

①立志登山

本校2学年の伝統行事である。蔵王の御釜で自分の将来の夢について発表した後、蔵王縦走に臨む。蔵王縦走では、自然に触れ、その厳しさや雄大さを感じながら縦走活動を行った。8時間ほどの縦走で、心身ともに負担の大きい活動ではあるが、達成した後は、充実感いっぱいの表情が見られた。

登山ボランティアの方に、群生する植物について教え



ていただきながら縦走を進めることで、生物や環境について理解を深める機会になっている。

②孫の手づくり

全校生徒で行う伝統行事である。学区内に住む米寿の方々にプレゼントする孫の手を作る活動で、材料である孟宗竹も地域で採れたものである。生徒は使う人のことを思いやり、心を込めて作っていた。

毎年行われる地区の敬老会で、可能な限り生徒から手渡しで贈呈しており、地域の方々と交流する良い機会となっている。

③森林体験・巣箱づくり

本校2学年で毎年実施している。セヶ宿町の「水守の郷」で枝打ちや製材の体験をさせていただく。その後、製材した木材を使って、地域ボランティアの協力を得ながら1人1個の巣箱を制作する。制作した巣箱は12月までに校庭の木に掛ける。鳥インフルエンザ等の影響もあり、鳥が巣作りする様子を観察することは難しいが、前年度に掛けた巣箱を観察することで、巣作りした痕跡を確認することができる。



木材を無駄にせず、大切に使うことを意識して巣箱づくりを行っている。

④被災地学習

昨年度までは、「被災地支援活動」として、山元町の仮設住宅周辺の草取りや清掃活動を行っていたが、復興が進み、仮設住宅が閉鎖されるという実態を踏まえ、今年度は「被災地（防災）学習」を実施した。

山元町の「つばめの杜ひだまりホール」で、マンホールトイレの設置実習や備蓄庫の見学などをした。白川地区は内陸部であるため、津波の襲来は想定されないが、川に囲まれた地形であることや、山が多いことには警戒が必要である。ひだまりホールの見学や実習は、生徒にとって防災について深く考える機になったと考える。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

みやぎ防災教育副読本「未来への絆」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間、特別活動においてユネスコスクールの活動を実施できるように位置づけています。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学年行事、学校行事や総合的な学習の時間において取り組むことで、継続的な実施に努めています。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

評価方法を検討中です。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校便りで保護者，地域の方に情報を発信しています。また，行事等は積極的に報道機関に情報提供し，取材を受けています。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度)
※チェック事項 2-3 に対応

公民館や仙南フォレストクラブを中心に各機関との連携をとっています。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

特に行っていません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域住民とのつながりや伝統を感じとる機会を多く設けることができました。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 孫の手づくり
- ・ 巣箱づくり
- ・ 被災地訪問学習
- ・ 立志登山